

社会人基礎力

#10 柔軟性

～ 「木を見て森を見る」

柔軟性とは何か

柔軟性とは意見の違いや立場の違いを理解する力のことをいいます

自分の意見を持ちながら、**自分の意見に固執せず**、他人の異なる意見や立場を理解したうえで、**ひとつの結論に到達**することができる、課題達成のための極めて重要な能力です

事例：

職場では、色々な価値観を持った人や立場の違う人（役割や使命の違い）が集まって、同じ課題を達成することが期待されることがよくあります

たとえば、プロジェクトです

課題は、「納期をあと6時間短くすること」だとしましょう

営業部の立場では、

「あと6時間短くできなければ、**お客様が離れてしまう！**」と言い、

製造部の立場では、

「今でも、**残業続き**で大変なのに、これ以上は**絶対ムリ！**」

このような水掛け論を繰り返す風景は、よく見かけることです

よくよく聞いてみると、

営業部の**製造部への発注時間**は、営業マンが夕方に**帰ってきてから行なう**習慣になっているとのこと

ならば、お客様からの依頼と同時に、たとえば、午前中に依頼を受けたら、その場で製造部に発注できたらどうなるか

製造部の回答は、『納期は4時間程度短縮できる』とのこと

それならば、

- ・ 営業部が受注と同時に、
- ・ 製造部へ
- ・ 正確に
- ・ 発注する**仕組みを作る**

と同時に、製造部は、

工場内の整理・整頓等を徹底し、従業員が効率よく動けるようにする

そうすることで、製造部としては『2時間程度短縮できる、ひょっとしたら、今より残業時間を減らすことができるかもしれない』とのこと

このように、**双方の知恵を出し合えば**、納期を6時間短縮するという課題をクリアすることは十分に可能です

それができないのはどうしてか

お互いが、過去の習慣、『**今まではこうだった**』に捉われていたり、**自分の立場だけを主張**することが大きな原因のひとつです

すなわち、**柔軟性を欠いている**ことにあります

※ 柔軟性とは意見の違いや立場の違いを理解する力のこと

柔軟性を発揮するためのポイント

1. チーム（職場やプロジェクト）の**共通する課題は何か**を常に念頭に置く
2. 部分最適と全体最適を両立させるスタンスに立つ

「**木を見て、森を見ず**」という諺を聞いたことがあると思います

「一部のことに目が行って、全体を見ることができない」という意味です

部分最適と全体最適を両立させるためには、
「**木を見て、森を見る**」というスタンスに立って、物事を考えることが必要です

そのためには、**① 自分の意見に固執しない ② 相手の意見を最初から否定しない**という姿勢が大切です

セルフチェック・シート

柔軟性が「ある人」と「ない人」のモノの見方や考え方、行動特徴

	柔軟性のある人	柔軟性のない人
達成すべき課題の理解	理解している	理解していない
部分最適と全体最適 ①	両立を目指す	部分最適に固執する
部分最適と全体最適 ②	木を見て、森を見る	木にしか感心を示さない
相手の意見に対する反応 ①	自分の意見に固執しない	自分の意見に固執する
相手の意見に対する反応 ②	相手の意見を最初から否定しない	相手の意見を最初から否定する
相手の意見に対する反応 ③	反対意見に受容姿勢を示す	反対意見に受容姿勢を示さない